

佛乗寺檀信徒の皆さまへ

日蓮正宗 佛乗寺 住職 笠原建道

「桜梅桃李」 《あるがまま 尊い一人ひとりです》

『御義口伝』

是桜梅桃李の己が位己が体を改めずして無作の三身と開覚す。是即ち量の義なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は無作三身の本主なり云云。(御書 一七九七頁)

この『無量義經』の「量」の意味は、桜や梅や桃や李がそのままの姿で花を咲かせ実を付けるように、地獄界から仏界にいたる衆生も、その姿や形を改めることなく、もともと・ありのまま、繕うこと無く、仏だった、と知ることです。これが「量」の意味です。末法の今日、日蓮の教えを固く信じ、本門戒壇の大御本尊様に向かい奉って南無妙法蓮華經とお題目を唱える者は、「無作三身の本主」なのです

冬の間、まちどおしかった桜も葉桜にかわり、新緑に移ろうとしております。佛乗寺の梅や杏や桜の花を見るたびに、「桜梅桃李」の御文を思い出します。この「桜・梅・桃・李」(おうばいとうり)は、『御義口伝』で無量義經を解釈される御文の一節です。

『御義口伝』は日蓮大聖人様が法華經について講義されたものを、御開山日興上人が書きとどめられ、大聖人様の允可(ゆるし・許可)を得て今日まで伝えられている相伝書です。

無量義經は法華經ではありませんが、釈尊が法華經を説くにあたり前書きとして説かれたもので、このような立場にある經文を「開經(かいきょう)」といいます。余談ですが、開く經があるのであれば結ぶ經もあるのが筋道で、法華經を結ぶお經、つまり「結經(けっきょう)」は、「觀普賢菩薩行法經(かんふげんぼさつぎょうほうきょう)」です。

無量義經には、よく知られている、

「四十余年・未顯真實」

(しじゅうよねんみけんしんじつ) 私は四〇数年間教えを説いてまいりました。しかし、それらの教えは仮りのものであり、真實の教えはこれから述べますが説かれております。

さて、桜梅桃李です。桜も梅も桃も李(スモモ)も同じような花に見えます。また、同じ頃に花が咲きます。梅が少し早いのですが、春の季節でくれば違いはありません。北国では一斉に咲き揃うようです。

ところが、六月から七月にかけて、それぞれに付いた実を見ますと、大きさも味も違うものになっています。

このことから、それぞれの花には、その花が本来兼ね備えている特性があることが分かります。分かりはしますが、季節の移り変わりがあって(実がなくて)初めてそのことに気づきます。同じように、法華経本門が明かされたことで、無量義経に貴い教えが説かれていることに気づきます。逆説的な言い方をすれば、法華経が説かれなければ、無量義経ばかりか一切の経文の意義が失われる、ということです。

私たちの信心の上にあてて、この「桜梅桃李」を拝してみますと、桜は桜、梅は梅であるように、私は私であり、貴方は貴方だということです。あえてそれを変える必要もなく、ありのままの自分であることが大事だ、と教えて下さるものではないでしょうか。

ただし、注意しなくてはならないことがあります。それは、私は私、という考えが極端になることです。桃は桃なのですが、それを強調しすぎではらない、ということです。少し前になりますが「自己中」という言葉がはやりました。何事も自分中心に考え、他人については考えが及ばないことを言い表す「自己中心的思考」を省略したものでした。乳幼児の思考様式の特徴で、あらゆる出来事を、自らの立場や、一方からの見方でしかできないことです。大人になってもこのような人は少なくありません。昨今問題になる「ストーカー」などは、まさにこの例です。この場合、身の回りに起こったことを認識したり分析するにも、自己中心的な偏ったものになります。ストーカー被害のことを知ったとき、被害者にも落ち度はある、という意味のことをいう場合があります。しかし、これはよく考えなければなりません。因果の教えからすればそのように云えるかも知れませんが、そういう人は「縁」を忘れています。同じ因があっても、縁によって変わることを知っている私たちの立場からすれば、被害者にも落ち度がある、とはいえません。

「自己中」は誰にでもあるものです。私たちは凡夫であり、成仏を目指す上での発展途上なのでから当たり前ではありませんか。みな自己中心的で不思議はありません。むしろ、ありのまま、つくろわず、との見方からすれば、そうなるともいえます。肝心なことは、そのような自分であることを自覚することにつきます。「御書を学ぶ」ことは、自身を知る方法である、といえます。

ともあれ、末法の濁った世の中に生を受けた私たちではありますが、法華経から見れば無量義経が貴い経文になるように、南無妙法蓮華経の御本尊様の前に手を合わせるとき、「貴方は貴方なのです。その貴方が貴いのです」と大聖人様から御言葉をかけて頂くことが出来るようになれます。

この御文の少し前に「自体顕照」と説かれますのは、季節の移り変わりという時間に照らし出されて、桜は桜、梅は梅であることが顕わるように、私たち

も、御本尊様の功德に照らし出され、心の中にある貴い姿を顕すことができることを教えて下さいます。「貴方そのままが貴く素敵なんです」という御言葉を信じようではありませんか。

佛乗寺は桜の季節が過ぎますと花水木が私たちを楽しませてくれます。今年で本堂を建て替えて十年を迎えます。花水木も十年で大きく成長しました。毎日見ていると気づきませんが、植えたときの写真を見ると成長のあとが分かります。信心も同じことではないかと思えます。前に進んでいるように思えないことだらけですが、時間が花水木を生長させたように、私たちの命の中にある仏の木も、御本尊様の前で御題目を唱える功德（時間）が、成長させて下さいます。今は気づかなくても、必ずそのことを知るときが来ます。覚りとはそのようなものではないでしょうか。

よき季節を迎えました。暑くなる前にできることをしておき、暑さを楽しめるようになりたいものです。ご精進をお祈り致します。

次回は〔自体顕照〕について、少し詳しく拝してみたいと思います。